



# **総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト 3年間の歩み**

**大阪樟蔭女子大学 川上正浩**

## そもそもキャリアとは

- 先を見据え、先につながることを見据え、「今、何をすべきか」を考えることが大切。
- 点と点をつなぐこと。点と点をつなぐ線がそれぞれの学生のキャリアとなる。

こと、そして、先に繋がることを見据えること、先を見据えた上で今、何をやるべきかということを考えることが、キャリアという言葉の意味合いではないのかと考えております。それは、今と、そして、未来との間には、無数の点があって、その点を点と点という形でつないでいくこと、それがキャリアを過ごしていくということであり、また、その点を繋いでいくことがキャリアの教育になるのではないか、と考えております。

### <スライド2について>

それでは、川上の方からサイクルプロジェクトの三年間の歩みについて、ご報告をさせていただきたいと思えます。本学のサイクルプロジェクトは、文部科学省のいわゆる現代GPの取組として、採択していただいたわけですが、基本的には、キャリアを考えるプロジェクトであるという位置づけのプロジェクトです。そもそも、「キャリア」というのは何かというお話からさせていただきたいと思いますけれども、我々がまず、そのキャリアとは何かという事を考えた時に、とにかく、先を見据える

## キャリア教育とは

- 人生を考えさせること。
- 自分の人生を考える力を育てること。
- 人生を通じて役に立つ知恵を育てることが必要。
- 汎用的で総合的なキャリア教育が必要。

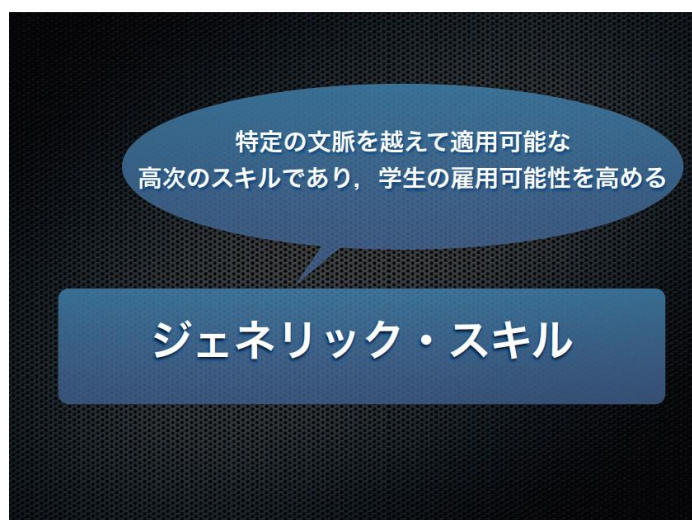
どんな進路を選択するにしても役立つような汎用的な力を育てることが、キャリア教育である。

### <スライド3について>

したがって、いわゆるキャリア教育として考えるべきなのは、具体的にどう就職するか、どういうところへ就職するかとかではなくて、そもそも人生そのものを考えることであり、そして、教育としては、その人生を考える力を育ててやること、これがキャリア教育になるのではないかと考えています。したがって、ここで重要になって来ますのは、人生を通じて役に立つような知恵を育ててやるということではないか。これは、“知恵”という言葉と、“知識”という言葉と対比させて使いたいと考え

ております。すなわち、個々の学問が持っているようなものも含めまして、それぞれの事は知識であり、それを、生活の中で、あるいは人生の中で、活かしていくことができるということが、知恵があるということになるのではないかと考えております。こうした知恵を育てていくためには、汎用的で総合的なキャリア教育が必要になってまいります。特に、本学の場合には、学科が非常にたくさんありまして、専門の内容が極めて多岐にわたっております。心理系の学科もありますし、栄養系、それから、文学系、等々非常に多くの種類の学問領域がありますので、学生の就職先とか将来についてのビジョンというのは、極めて多岐にわたっています。そうした中で、大学としての取組として、キャリア教育、あるいは、キャリアというものを考えていく時に、できるだけ、汎用的でかつ、総合的なキャリア教育というのを考えていくことが必要なのではないかというところに思い至りました。すなわち、どん

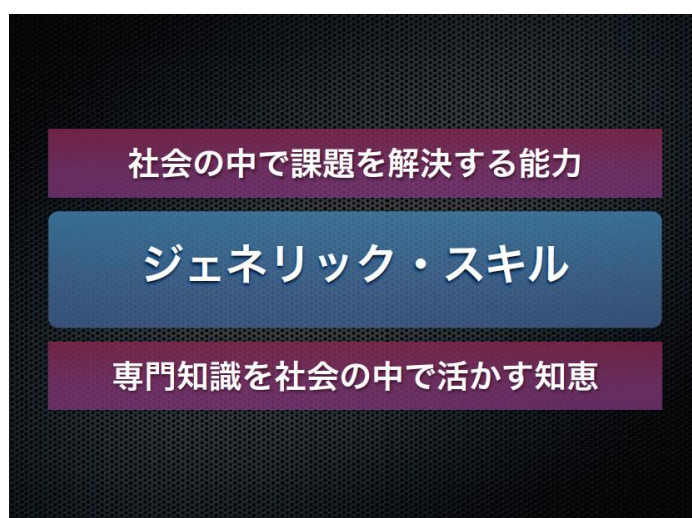
な進路を選択するにしても、そこで役に立つような、汎用的な力を育てること。これがキャリアの教育であるという風に我々自身は考えたわけです。



#### <スライド4について>

そのうえで、では、どんな進路を選択するにしても役立つ、汎用的な知識、汎用的な力、汎用的なスキルというのは何か、ということですが、ここでもわれわれが注目をいたしましたのが、ジェネリック・スキルと呼ばれているスキルであります。これはジェネリック・スキルというものは何であると言われていたかと申しますと、特定の文脈を超えて、使えるような適用可能な高次のスキルであって、これは、学生の雇用可能性、非常に生々しい話になりましたけれども、雇用可能性を高める

といわれているスキルだということになっているわけです。ジェネリックという言葉は、いわゆる医薬品でしか名前を聞いたことがないという方が多かったわけですが、その中で、ジェネリック・スキルというものに注目をして、我々はこれを学生の中に育てていこう、ジェネリックというのは当然ですが、非常に汎用的なもの、非常に抽象的なものですので、このままでは、どうにも扱いづらいということで、我々は改めてジェネリック・スキルというものを考えたうえで、こんな風に考えました。



#### <スライド5について>

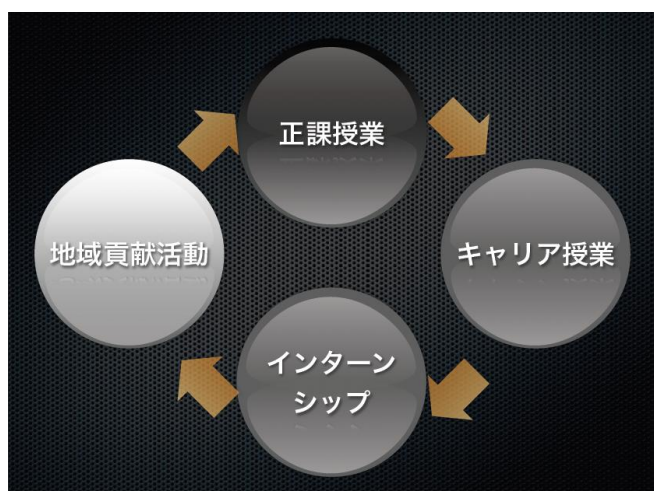
すなわち、ジェネリック・スキルというのは社会の中で課題を解決する能力である、そして、その専門知識、特に大学での本来の教育として求められているのは、ある種の領域における専門知識の習得というのが中心的な位置にあるわけですが、この専門知識を実際に社会の中で活かしていくための知恵にあたる部分ではないか、と考えたわけです。



#### <スライド6について>

そのうえで、このジェネリック・スキルというのを改めて、4つの力、これは広島経済大学さんもたまたまというべきかわからないですけれども、4つというフィールドを設定されておられましたが、我々も4つの力という風に考えたわけです。その4つの力というのは、「気づく力」「考えぬく力」「聴き・伝える力」「やり遂げる力」すなわち、本学においては、このジェネリック・スキルというものをこの4つの力であると考えて、プロジェクトを進行させていくということにいたしました。この4

つの力というのは、実は、循環する4つの力なのではないか、というのが我々の考え方です。すなわち、我々が何かの問題に直面した時に、その問題がどこにあるのか、ということに気づく。このことがまずは、問題解決、あるいは、課題解決のスタート地点にあたるかと思います。そして、問題に気づいた場合に、それについてしっかり考えぬく。これは、論理的に考えるでありますとか、客観的に考えるでありますとか、いろんな意味合いを含めまして、考えぬくことが必要である。そして、その上で、それを他者とコミュニケーションしていく中で、つまり、人から情報を集めたり、あるいは、人に我々から情報を発信して伝えたりしていく中で、最終的に課題を解決するという形でやり遂げるということが待っているのではないかと、いう風に考えます。そうすると、やり遂げた段階では、我々は一段高い位置にいるわけですので、また、視野が変わりまして、新しい問題点が見えてきたり、さらなる目標が見えてきたりということで、また、気づいて、ということでこの4つの力は、循環する4つの力だと我々は考えております。こうしたチカラを学生さんの中に育てていくことが、非常に重要で、それが、我々が考えるキャリア教育にあたるのではないかとというのが我々のスタンスです。



#### <スライド7について>

では、こうした力を育てていく育てていくと言いますけれども、どこで育てていくのか、どういう場面で育てていくのか、という考え方が、次のスライドです。4つの場面を我々自身は想定をいたしております。ひとつ目が正課授業、すなわち、これは、大学の普通の授業という場面です。それから、二つ目がこれは、多くの大学で設定されていると思いますけれども、いわゆるキャリア科目と呼ばれるキャリアの育成、キャリアの教育を目指す、目標とした科目群、そして、3つ目がインターンシップ。そして、4つ目が、地域貢献活動。

これは、ボランティアなんかを主に考えておりますけれども、場合によっては、アルバイトなんかも含めてこのあ

たりに入ってくるのではないかと我々自身は考えております。すなわち、大学生の本分としてのまず正課授業、ここの中で、こういう力を育てる。その力を持って、彼女らは、キャリア授業なんかにも出かけていく。出向いていく。そして、そういう大学の中で培ったそういう力を持って実際に、企業の場合、実際の社会の中という言い方が適切かもしれませんが、インターンシップの中に出かけて行って、そこで、力を磨く。そのうえで、最終的には、広く地域社会の中で、というような言い方になりますけども、力を磨いていって、そこでまた、これもまた先程ご報告いただいた広島経済大学の取組と非常に近いと思っているんですが、そういう活動の中で、必要になる力がわかってくれば、それを授業の中で身につけようという形で、授業に帰ってくるという形。これ自身も循環するような、4つのフィールドだと考えるわけです。

---

**Shoin  
Integrated  
Career  
Leading  
Education**

**SICLE-Project**

<スライド8・9について>

この取組自身を我々は樟蔭が取り組んでいる統合的なキャリアを導いていくような教育であるという風に考えまして、Shoin Integrated Career Leading Education という風に名前を付けました。これをSICLEプロジェクト、循環という意味合いのサイクルとかけているので、時々、綴りが間違っていますよ、と指摘をされたりするんですけども、そうではなくて、こういうもじりでサイクルプロジェクトという名前を付けて、活動が続けてまいりました。ここから3年間、実質的には2年半というべきかもしれませんが、3年間の取組について、順次ご報告をさせていただこうと思います。



## 2007年度の取組

- 教育開発機構内へのジェネリック・スキル教育部会の設置。
- ジェネリック・スキル自己評価項目の設定。
- ジェネリック・スキル教育協賛科目の設置。
- ジェネリック・スキル自己評価の実施。

<スライド 10・11 について>

まず、2007 年度の取り組みについてご報告をさせていただきます。この年にいわゆる現代GPの採択をいただいて、取組をはじめたわけですが、ここで、まず、させていただいたのは、教育開発機構という本学の組織でございます。これは、いわゆる本学のプロジェクト型の、本学の教育について考えていくための機構でありますけれども、この機構の中にジェネリック・スキル教育部会というものを設置いたしまして、この部会の中で、本学におけるジェネリック・スキル教育を考えていこうという体制を作りました。そして、このジェネリック・スキル教育部会の中で、ジェネリック・スキルに関しての自己評価項目を設定いたしました。その上で、ジェネリック・スキル教育の協賛科目という位置づけ。これは、いきなり、全科目を対象にして、プロジェクトを進行させていくというのは非常に困難でありましたので、まずは、選ばれたいくつかの科目、あとでもう少し詳しく説明させていただきますけれども、手を挙げていただいた先生方にご協力をいただきまして、そういう科目を設置いたしました。その上で、実際学生さんの方にジェネリック・スキルの自己評価を実施したというのが、この 2007 年度の取り組みだということになるかと思います。

## 自己評価項目の設定

- 4つの力それぞれに対して、授業場面で実感できる5つの項目を設定。
- 社会の中で、はもちろん、授業の中で必要とされる力を授業の中で育てる。
- 自己評価は客観的な指標ではないが、「自己評価が上がる」ということ自体には**大きな意味がある**。

<スライド 12 について>

まずは、自己評価項目の設定についてですが、先ほど定義させていただきました、「気づく力」「考えぬく力」「聴き・伝える力」「やり遂げる力」という4つの力に対しまして、それぞれ授業の場面でも実感できるような評価項目というのを5つずつ設定いたしました。この、取組の非常に重要なポイントだとふうに私が考えておりますのが、この4つの力「気づく力」「考えぬく力」「聴き伝える力」「やり遂げる力」というのは、当然ですが、社会の中で、あるいは、キャリア教育として

非常に重要な力であると同時に、実は授業そのものを支える力でもあるということです。言い換えますと、授業の

中で必要とされる力を当たり前のように授業の中で育てていこうというのが、この、サイクルプロジェクトという取り組みであると考えられるかと思います。その上で自己評価できる、というようなことで、自己評価項目を作りまして、これ自身は客観的な指標では当然ないわけですがけれども、自己評価が上がるということ自体は、私自身は学生にとって非常に大きな意味を持つと考えております。つまり、自分で自己評価が上がったと実感できるということ自身は、客観的な評価がどうであるかということは一端置いておくことにしましても、非常に意味があることであると考えています。そうした上で、4つの力に対して、自己評価の項目を作成いたしました。だいたいこんな感じの項目です。

### 気づく力

- 物ごとをいろいろな角度から見ている。
- 自分の強み、弱みをわかっている。
- 目標を設定し、そのために何が必要かを考えることができる。
- 他者の意見や考え方と自分の意見や考え方との違いをわかっている。
- 好奇心を持って、授業にのぞむことができる。

### 考えぬく力

- ひとつの考え方にこだわらず、柔軟に考えることができる。
- 「なぜ、どうして」を常に意識し、論理的な考え方ができる。
- 情報を整理し、それに基づいて考えることができる。
- 自分の考えを文章の形で表現することができる。
- 授業で学んだことと現実社会との関係について考えることができる。

### 聴き・伝える力

- 相手の話を真剣に聞くことができる。
- 立場や価値観の異なる人の意見を尊重することができる。
- 自分の考えや感情を適切な形で相手に伝えることができる。
- わかりやすく話すことができる。
- 多くの人前で話すことができる。

### やり遂げる力

- 責任を持った言動ができる。
- 集中して授業にのぞむことができる。
- 継続力があり、結果、結論を出すまで取り組むことができる。
- 結果について自己評価を行い、次の取組に活かすことができる。
- 時間、期限を守ることができる。

<スライド 13・14・15・16について>

物ごとを色んな角度からみることができたり、他者の意見や考え方や自分の意見と比較するなんてことができるようになるということが、我々が特に授業の中で求める気づく力である。そして、考えぬく力といいますのは、特に、柔軟性でありますとか、論理性、そういう風なものを中心に、且つ、現実社会との関係についても授業で学んだことを繋いで考えていくということも考えぬくという力に入るのではないかと考えております。それで、3

つ目の聴き・伝える力ですけれども、これは、相手の話を真剣に聞くとか、聞く情報を入力する側と、明確に話す事が出来るという形の伝える側の力と両面を持った力、聴く力、伝える力という風に設定しております。最後のやり遂げる力なのですが、これは責任感でありますとか、集中力あるいは、タイムマネジメントの領域なんかもこの辺の力であると我々は考えております。

## 正課授業内での取組

- ジェネリック・スキル教育協賛科目（21科目）を秋期に設定。
- 自己評価シートを、秋期開始時と秋期終了時に実施することにより、4つの力の伸びを測定。

## 21科目の協賛科目

19年度は以下の科目でジェネリック・スキルの向上を目指します

| 科目名      | 配当   | こんな力を身につけます                                                                                                    |
|----------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教養ゼミナール  | 学1～4 | <div>気づく</div> <div>考えぬく</div> <div>聴き・伝える</div> <div>やり遂げる</div> テキストを丁寧に読み、“生きる”ことをめぐって考え、新しい視点を獲得し、視野を開きます。 |
| 基礎専門セミナー | 英1①② | <div>気づく</div> <div>考えぬく</div> <div>聴き・伝える</div> <div>やり遂げる</div> 日英のことは・文化を比較して「なるほど！英語の発想って面白い」と気づく力を身につけます。 |

協賛科目一覧表を学生に配付

<スライド 17・18について>

そして、これらの力を育てる、正課授業としての取り組みですが、この2007年度におきましては、秋期の科目にジェネリック・スキル協賛科目ということで、21科目を挙げていただきました。この21科目を設定した上で、学生にジェネリック・スキルを意識したような教育、授業を行って、それをその上で、秋の開始時と終了時に自己評価を実施して、力の伸びを測定する、という風なことをしております。その21科目の協賛科目ですけれども、具体的に一個一個ご紹介はいたしませんけれども、学生に、19年度は以下の科目でジェネリック・スキルの力をつけていきますよ、ということで、協賛科目の一覧を学生に配布しております。これは、具体的には、科目名と配当、それに対してどんな力を身につけることを目指すのか、という風なことを「気づく」～「やり遂げる」までの4つの力のうちのこういう〇をつける形で、この力とこの力を意識した科目として設定します。具体的には、こういう力を身に付けていきますよ、ということをメッセージとして、学生に伝える形で行っています。

# 自己評価シート

姓・名

学年

### ジェネリク・スキル 自己評価シート

本書は、「総合的人能力（ジェネリク・スキル）」を育てることを目指して、多様な学習状況の中で一人一人の人間として抱える課題を認識し、社会や環境と関わるなかで力を養育を目指す。この認識、育成のために必要とされるジェネリク・スキル4つの力（気づき、考える、伝える、やる気）を、それぞれについて自分自身でどう評価をしているのかを知るために行います。この結果の集まることでジェネリク・スキル教育の発展に役立ててくれますので、どうかご協力ください。なお、シートに記入された内容があなたの実績評価に用いられることは一切ありません。

記入例

3年 普通科2年次グループワーク  
 2019年12月  
 自己評価シート記入例

気づき

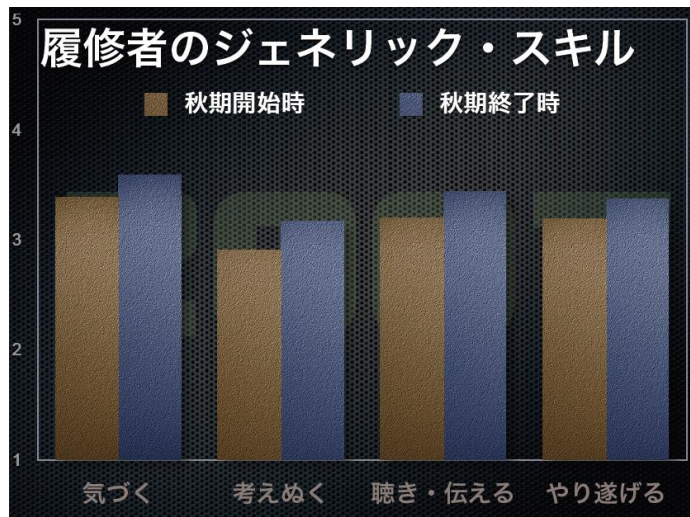
|                                 | 達成度                      |                          |                          |                          |                          |
|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
|                                 | 強い                       | 学生自己評価                   |                          |                          | 弱い                       |
|                                 | 1                        | 2                        | 3                        | 4                        | 5                        |
| 1 ものごとをいえるな角度から見て               | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2 自分の強み、弱みを知っている                | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3 目標を設定し、それのために何が必要かを考えることができる  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4 他者の意見や考え方や自分の意見や考え方の違いをわかっていく | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5 好奇心を持って、課題にのめりこむことができる        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

考える

|                                   |                          |                          |                          |                          |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 6 ひとつの考え方にこだわらず、複数の考え方ができる        | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 7 「なぜ、どうして」を常に意識し、論理的な考え方ができる     | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 8 情報を整理し、それに基づいて考えることができる         | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 9 自分の考えを文章の形で表現することができる           | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 10 授業で学んだことと現実社会との関係について考えることができる | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

<スライド 19 について>

その上で、学生さんにはいわゆる自己評価シートということなんですけれども、マークシート方式の、こういう感じの、字が小さくて見えないかもしれませんが、先ほどあげさせていただいた項目がズラっと並んでおりまして、学生さんは、それに対して、自分の状態がどのぐらいの状態であるか、というようなことを1から5までの5段階で評価する、評価するというシートでございます。こういうシートを学生さんに配布しまして、実際に自己評価をしてもらいます。



<スライド 20 について>

これを秋の最初と秋の終了時とっておりますので、たとえば、ジェネリック・スキル協賛科目をとっていた学生さんの自己評価について見てみますと、秋学期の開始時と終了時で、こんなふうな差が出ているという形です。全体的な特徴として、本学の学生さんで言うと、たとえば、考えぬくというところが若干弱いような形なども見て取れるかと思います。以上の辺りが、2007年度 of 取組として、挙げさせていただけることであるかと思っています。



## 2008年度の取組

- 「裏シラバス」の作成。
- Webポートフォリオの稼働。
- 学生提案型インターンシップの実施。

## <スライド 21・22 について>

これを踏まえまして、2008 年度の取り組みについて、ご報告をさせていただきます。2008 年度につきましては、裏シラバスというのを作成しました。裏というのは非常に表現が悪いんですけども、これは、後で申し上げますが、いわゆる正規のシラバスが出てしまった後に、これを作ったので、敢えて、裏シラバスという風に申し上げます。これが何であるかということはまた後ほど、説明させていただきます。それから、こちらもちっと説明が必要かと思いますが、ウェブポートフォリオを稼働させました。ウェブポートフォリオというのは、これはインターネット上に構築された、いわゆる個人ページです。このシステムを使って、学生の特にジェネリック・スキルの自己評価なんかを蓄積していった、学生さんのためにも、コミュニケーションのためにも、役立てようというシステムです。それから、この年から、学生提案型インターンシップという新たな枠組みのインターンシップを実施しています。

### 裏シラバス

- 専任教員の先生方にジェネリック・スキルの4つの力「気づく力」「考えぬく力」「聴き・伝える力」「やり遂げる力」それぞれについて、その授業で「どの程度教育に力を入れているか」を5段階で評定いただき、これを一覧の冊子として学生に配付

### 裏シラバス

| 科目番号  | 講義名     | 教員名     |
|-------|---------|---------|
| 21704 | 認知心理学特論 | 川 上 正 浩 |

| 気 | 考 | 聴 | 遂 | 内 容                                                |
|---|---|---|---|----------------------------------------------------|
| 4 | 5 | 5 | 5 | グループでの実験の実施を通して、自ら課題に気づき、チームワークの中で実験をやり遂げる力を訓練します。 |

## <スライド 23・24 について>

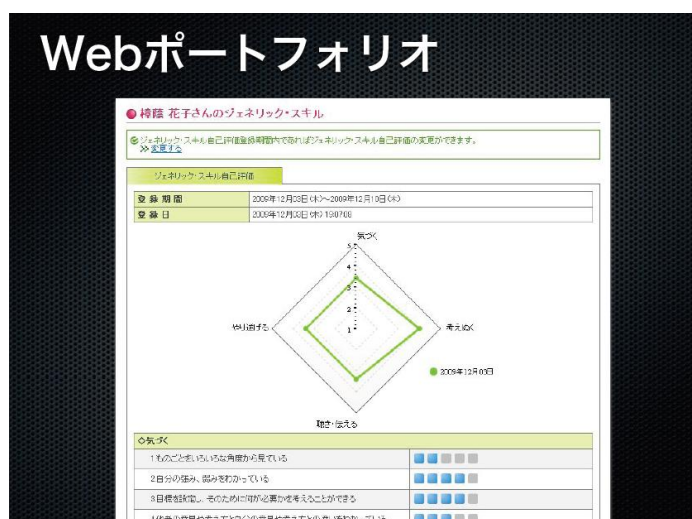
では、まず、裏シラバスについてからお話をさせていただこうと思います。2007 年度については、いわゆる協賛科目 21 科目だけで、取り組みをいただいたということなんですけれども、この 2008 年度については、基本的には専任の全ての先生方に、ジェネリック・スキル教育を意識した、あるいは、意図した授業をやってください、という形でお願いをいたしました。それぞれの授業で、どの力を伸ばしたいのか、どの程度力を入れるか、ということをお願いいただきまして、この宣言について、1 冊の冊子として、学生に配布いたしました。これを裏シラバスという風と呼んだわけなんですけれども、具体的にはこのようなイメージです。授業名、あるいは、担当者名があって、通常のシラバスは別に配付されていますので、これぐらいの情報しかないですけれども、こっち側に気づく、考えぬく、聴き・伝える、やり遂げるという4つの力をそれぞれ5段階で言うと、どのぐらい力を入れてやりますよ、ということをお願いいたします。そのうえで、内容について特に、授業の具体的な内容というよりは、ジェネリック・スキル教育の側面から見て、どんなことが目指されているか、どんなことを狙う授業か、ということについて、コメントをいただいております。この授業ですと、たとえば、グループでの実験の実習を通して、課題に気づくこと、やり遂げる力を訓練しますよ、ということをお願いしているわけです。



適切なアドバイスを行うためのコミュニケーションのツールとして、使えるものだと認識しております。

## <スライド 25 について>

このような全ての科目に対しての、この裏シラバスを配った上で、学生さんにはウェブポートフォリオというシステムを使って、自己評価を求めました。ウェブポートフォリオは先ほども申し上げた通り、Web上に構築されたページなんですけれども、学生さんの側からすると、自分の活動や成長について記録していく、そして、自分の活動そのものを把握するためのツールである。一方では、教員の側から見ますと、このウェブポートフォリオというのは、学生の活動なんかを把握した上で、適



This screenshot shows a teacher's Web Portfolio page. It features a table with 20 evaluation criteria (numbered 11 to 20) and a corresponding evaluation scale (blue squares). Below the table is a section for 'コメント欄' (Comment Field) with a text area for writing comments. At the bottom, there is a button labeled '入力内容を確認する' (Check input content) and a link to 'ジェネリックスキル一覧' (List of Generic Skills).

## <スライド 26・27 について>

具体的な画面ですけれども、たとえば、こんな感じです。これは、仮のページですけれども、学生さんの4つの力の自己評価、現段階とか以前の状態について、こういうレーダーチャートとかの形で表示した上で、自己評価ができるような項目がこのように並んでいます。この自己評価を学生さんがした後で、コメント欄のところに、自分は今回の自己評価を踏まえてこんな風に考えている、とか、あるいは、今後の目標はこういうことです、ということを書く。それに対して、ここでは空欄になっておりますけれども、教員が、適切なコメントを返していくことによって、教員が教育的に関わっていくことができる、というシステムです。

## 学生提案型インターンシップ

- ジェネリック・スキル教育実践の場としてのインターンシップ。
- 企業との産学連携により、商品企画など企業のニーズ・課題に対して、学生が、学生ならではの、女性ならではの、視点を生かした提案をまとめあげる。

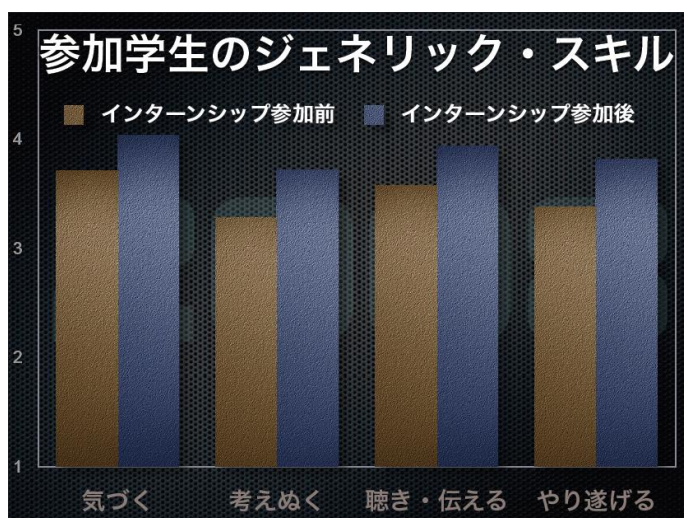
<スライド 28 について>

そして、2008 年度からの新しい取組として、学生提案型インターンシップというのがあります。これは、ジェネリック・スキル教育を実践する場としてのインターンシップです。従来のいわゆるインターンシップの多くは、いってみれば、企業さんにお任せで、企業さんに学生さんを投げて、よろしくお願いします、ということでお預けして、お世話になって帰ってくる、というようなイメージだったわけですが、そうではなくて、今回のインターンシップは、企業とのいわゆる産学連携、

非常に厚かましい言い方をしますと、企業さんの側にもメリットのあるようなインターンシップというのを作りたい。そして、学生のジェネリック・スキルを鍛える、トレーニングする場として使いたい、ということで、企業さんの側から、色々なニーズ、お題をいただきまして、それに学生が、学生ならではの視点、あるいは女性ならではの視点から、応えて、企業さんの側に対して提案をしていくというインターンシップです。

## 学生提案型インターンシップ

| 実習先      | 与えられたテーマ           | 学生数 |
|----------|--------------------|-----|
| 雑貨卸      | 20～30代女性向けの生活雑貨の企画 | 14名 |
| アパレルメーカー | 秋冬に売れそうなアウターと小物    | 12名 |
| 洋菓子メーカー  | 2008年度クリスマスケーキの提案  | 13名 |
| 飲料メーカー   | 乳飲料または清涼飲料水の商品開発   | 6名  |
| 化粧品メーカー  | 10年後の美容室におけるアロマ商品  | 12名 |



<スライド 29・30 について>

具体的な内容としては、こういう形です。アパレルメーカーさんに、アウター、小物を提案していくとか、洋菓子のメーカーさん、チーズケーキの専門のメーカーさんですが、学生さんに受けそうなチーズケーキのクリスマスケーキを提案してくる。というようなインターンシップです。これは、幸いなことに企業さんの側からもよくやってくれたと言っていたものがいくつもありますし、それから、何よりも我々の側からすると、学生さん、特にインターンシップに参加した学生さんのジェネリック・スキルについて見てみますと、インターンシップ前とインターンシップ後で、非常にはっきりとした自己評価の向上が認められるというデータも得られております。これが、2008 年の取り組みです。



## 2009年度の取組

- シラバスそのものの中に、各科目におけるジェネリック・スキル教育の観点を記載。
- “到達度指標”という考え方に基づいて、あらためて自己評価項目について検討。
- 秋期より、全学生を対象に、Webポートフォリオによるジェネリック・スキルの自己評価。
- ジェネリック・スキル教育部会を拡大。

### <スライド 31・32 について>

そして、2009年の取り組みですけれども、ここでは、まず、2009年の非常に大きな動きは、2008年では、裏シラバスという形で、裏で配っていたものを、正規のシラバスの中に、ジェネリック・スキル教育の観点、視点というのを記載したということ。それから、これは現在進行形ですけれども、到達度指標という考え方に基づいて、自己評価の項目について、見直しをしています。また、全学生を対象にこのウェブポートフォリオを稼働させたので、全学生を対象にして、そのウェブポートフォリオによるジェネリック・スキルの自己評価を実施したということで、こうした動きに伴って、ジェネリック・スキル教育部会、2007年度の最初のところでも、申しましたけれども、本学の教育を考えていく教育開発機構の中のジェネリック・スキル教育部会、これは、最初スタートした段階では、すべての学科の先生方が参加されているようなタイプの部会ではなかったわけですが、今回、全学科で実施していくということ、それから、到達度指標について、改めて考えていく中で、やはり、すべての学科の先生方の考え方を取り入れていく必要があるだろうということで、拡大いたしまして、すべての学科から、メンバーを出していただきました。先生方お忙しい中、非常にご負担をおかけしたわけですが、こうした体制で実施していくことになりました。

## シラバスへの記載

|                                                                                                                                  |               |               |               |                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------|---------------|--------------------------------------------|
| 30005                                                                                                                            | 心理統計法A        | 1回生           | A2            | 川上正浩                                       |
| <p>【学生に対する評価】筆記試験、毎回の小レポートにて記述統計の知識と技術の定着度を測定します。すべての授業に無遅刻、無欠席で臨むことを前提としなうで、平常の小テスト・小レポート（評価の40%）と筆記試験の点数（評価の60%）によって評価します。</p> |               |               |               |                                            |
| GS対応                                                                                                                             | 気づく<br>聴き・伝える | 考えぬく<br>やり遂げる | GS教育の<br>ポイント | 各種統計量についてその意味を理解し、これを計算することで、やり遂げることを求めます。 |

## シラバスへの記載

どの力を伸ばすのか

|      |               |               |               |                                            |
|------|---------------|---------------|---------------|--------------------------------------------|
| GS対応 | 気づく<br>聴き・伝える | 考えぬく<br>やり遂げる | GS教育の<br>ポイント | 各種統計量についてその意味を理解し、これを計算することで、やり遂げることを求めます。 |
|------|---------------|---------------|---------------|--------------------------------------------|

ジェネリック・スキル教育として  
どのような授業を展開するのか

## <スライド 33・32 について>

具体的なシラバスへの記載ですけれども、シラバス部分、ちょっと真ん中飛ばしておりますけれども、「学生の評価」で終わっていたところが、その下に「GS対応」というのをつけまして、ここで、気づく、考えぬく、聴き・伝える、やり遂げるの4つの力のどの力を伸ばすのか、ということをチェックする。そのうえで、またジェネリック・スキル教育として、どのような授業を展開するのか、というようなことについて記載するという形で、本年度からシラバス上にこの情報をきっちりと載せることが出来ました。

### 到達度指標

- 学生がより自己評価を行いやすい形を目指して。
- 教員側からも評価が行いやすい形を目指して。
- 必要に応じて、学科の教育目標とのすり合わせを可能に。

### 気づく

- 1つの事柄に関してその変化を捉えることができる。
- 他者や異文化の存在に気づき、理解しようとしている。
- 「なぜ、どうして」を常に意識するようにしている。
- 最新の情報や科学の進歩について関心を持っている。
- 好奇心を持って授業にのぞむことができる。
- 周りのいろいろなことに興味を持っている。  
etc.

### 考えぬく

- 問題点を把握し、その解決方法を順序立てて組み立てることができる。
- 常識や定説にとらわれることなく自ら考えて行動することができる。
- 提示された情報について、その内容が示す意味を考えることができる。
- 提示された情報の整合性について考えることができる。
- 自分の思考の筋道について振り返ることができる。  
etc.

### 聴き・伝える

- インターネットや図書資料など、さまざまなメディアから情報を集める技術がある。
- 相手の知識や感情を意識して適切なやり取りができる。
- パワーポイントなどの視覚的ツールを適切に使うことができる。
- 論文、書籍などの文章で表現された情報内容を正確に読み取ることができる。
- 自分が伝えたい内容を情報の受け取り手を意識しながら表現することができる。 etc.

## やり遂げる

- 困難にぶつかったときも前向きにその課題に向かうことができる。
- 細かいミスのない作業を行うことができる。
- やり遂げた結果に対する反省点を、次の試みに活かすようにしている。
- 課題に対して、自らタイム・スケジュールを設定し、管理することができる。
- 課題の内容にあわせて適切に注意をふりわけることができる。 etc.

評価がしやすいような形になるように、そして、教員の側からみても、出来るだけ評価がしやすいような形で、これは、とりもなおさず本学が学生さんにどんな力を身に付けてほしいと思っているかということ、ある意味で具現化したものであるという風に我々は捉えています。こうしたところで、学生さんにはこういう力が必要であって、こういう力を伸ばしていくことが、大事なんだということで、大学としてのコンセンサスを得るということが非常に重要なのではないか、そして、その項目を策定していく中で、そうしたことが非常に重要なのではないかと考えつつ、現在、このプロジェクトは進行中だと言えます。

<スライド 35・36・37・38・39 について>

その上で、到達度指標なんですけれども、学生が自己評価をより行いやすい形、そして、それと同時に教員側からも評価が行いやすいという形を目指して、かつ、必要に応じては、学科自身の教育の目標、教育の理念等とすり合わせが可能になるようにということで、まずは標準的な到達度指標というのを改めて考えています。たとえば、こういうものです。このあたりについては、お手元の資料にも記載しておるかと思いますが、読み上げることはいたしません、学生さんができるだけ自己評



今後の課題

## 教育プロセスの検証

- プロジェクトの中核であると考えられる正課授業内での取組について検証が必要。
- “授業改善のためのアンケート”等との融合を目指す。
- 教育方法の検証と開発が不可欠。

<スライド 40・41 について>

さて、今後の課題についてなんですけれども、本学のプロジェクト3年間やってきたわけなんですけれども、決定的に欠けているとわたくし自身が認識しておりますのは、教育プロセスについての検証です。特にプロジェクトの中核である、正課授業内で、ジェネリック・スキルを伸ばすという取り組みについては、それが、どんな営みで、どんな風に教育として機能しているのかという検証がまだまだ不十分であると思っています。学生の側から見た視点についても、先生方の方としましては、こういう力を伸ばしますよ、ということで宣言はしていただいたわけです。

が、それが十分に達成されているのかどうかということ、いわゆる授業改善のためのアンケート、これは、この授業がどんな授業であったか、という一般的に授業評価といわれているものですが、こういうアンケートの中に組み込んでいくことによって、ジェネリック・スキル教育として、その授業がどんな風な役割を学生さんにとって成したのかというようなことは、評価していく必要があるだろうと思っております。その上で、実際にはどんな教育方法が、ジェネリック・スキルを伸ばしていくのに、適正なのか、そして、有効なのかというようなことを検証したうえで、開発していくことが必要だと考えております。

## メリットの検証・周知

- Webポートフォリオの利用促進のためには、そのメリットを検証し、学生に周知することが不可欠。
- もちろん教職員に対しても。

### <スライド 42 について>

もう一つポイントは、学生さん自身はたとえばウェブポートフォリオで、自己評価してくださいよ、という連絡を事務局から投げたりするわけですが、必ずしも 100 パーセントの学生さんが、その場で自己評価してくれるわけではない。それは、要は、ウェブポートフォリオに彼女らの活動を蓄積していく、彼女らの状況を蓄積していくということのメリット自身が彼女ら自身にそれほど十分に納得されていない、あるいは、周知されていないというふうな所に原因があるのではないかと

考えています。そういった意味では、ウェブポートフォリオ、せっかく、作ったわけですから、有効にできるだけ活用していくためには、そのメリットをしっかりと検証したうえで、学生さんにこういうメリットがあるんだということを伝えていく義務があるのだろうと思っています。そして、何よりも大事なことは、こうしたことを教職員に対しても、十分に周知した上で、全学的な取り組みとして、学生のこういう力を育てていくこととして、その事が学生の為になる、と同時に、先ほどから申しておりますように、この力は、授業をよくするための力そのものであるということに着目した上で、授業が良い授業、楽しい授業、有効な授業になるというところを通じて、我々教員の側にも、あるいは教職員全体にというべきかもしれませんが、帰ってくるものであるということを周知していくことが、重要なのではないかと考えています。

現代GPとしての取組は平成22年3月にて  
終了いたしますが、サイクル・プロジェクト  
の道りはまだまだ半ばです。

今後とも、本学のサイクル・プロジェクトに  
ご支援、ご協力、ご指導をいただきますよう  
よろしくお願い申し上げます。

**総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト  
3年間の歩み**

ご清聴ありがとうございました

<スライド 43・44 について>

現代GPの取組としては、これで、終了となるわけですが、サイクルプロジェクトそのものは、まだまだ半ばのプロジェクトであります。今後ともまたいろいろとご指導いただきますように、よろしくお願いをしたいと思います。では、わたくしの方の報告を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。